

民法成立史一斑（七）

— 筑波大学附属図書館蔵「穂積文書」採録 —

阿部 徹

第一部 旧民法関係資料

三 財産取得編関係

二二 民法草案財産取得編

民法（草案）

財産取得編

総則

第一条 物上及び対人ノ権利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ルノ外尚ホ本編ニ規定スル特定名義又ハ包括名義ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得
包括名義ニテ取得スル者ハ其前主ノ総テノ権利及ヒ義務ヲ

民法成立史一斑（七）

相続ス但法律ニ規定シタル例外ヲ妨ケス

第一部 特定名義ノ取得方法

第一章 先占

第二条 先占ハ無主ノ動産物ヲ己レノ所有ト為スノ意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ為スニ因リテ其所有權ヲ取得スルノ方法ナリ

第三条 〔略〕

第四条 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ証スルノ責ニ任ス

第五条〜第六条 〔略〕

第二章 添附

第七条 動産ト不動産トヲ問ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附従トシテ合シタル物ヲ下ノ區別ニ従ヒ且價金ヲ払ヒテ取得

ス

第一節 不動産上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附着セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ証拠アルトキハ此限ニ在ラス

右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但名義又ハ時効ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス

植物ニ関スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ為シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スルノ強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其除去ヲ強要スルコトヲ得ス

然レトモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒ

テ材料ノ本主ニ償金ヲ払フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ為シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一年年内ニ其草木ヲ拔取り且之ヲ返還スルノ強要ヲ受ク尚ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス

右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一年年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ為シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工

作物又ハ草木ヲ取払フノ責ニ任セス所有者ハ其選択ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ払ヒ又ハ不動産ノ増価額ヲ払フ築造又ハ栽植ヲ為シタル者カ惡意ノ占有者タリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ旧狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ払ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トヲ問ハス水流ノ寄洲ハ沿岸所有者ニ屬ス

寄洲カ水流ニ並行シ又ハ殆ント之ニ並行シテ沿岸ノ數箇ノ土地ニ生シタルトキハ所有者ノ各自ハ其土地ノ内部ノ広狭ニ拘ハラズ水流ニ接シタル土地ノ部分ニ付キ右ノ寄洲ヲ利得ス

右ニ反シテ寄洲カ水流ト角度ヲ成シ所有者ノ各自ニ歸ス可キ部分ヲ定メ難キトキハ其各所有者ハ分割スルコトヲ得サル部分ニ付キ水流ノ旧狀ニテ其水流ニ接スル所有地ノ部分ノ割合ニ応シ共有者タリ

如何ナル場合ニ於テモ沿岸者ハ行政官ノ許可ナクシテ從來ノ挽船路又ハ沿岸路ノ位置ヲ變更シ又寄洲ニ於テ挽船又ハ通航ノ便ヲ妨ク可キ築造又ハ栽植ヲ為スコトヲ得ス

第十三條 沿岸者ハ右同一ノ區別及ヒ條件ヲ以テ舟筏ノ通スルト否トヲ問ハス河川ノ干瀉ヲ利得ス

然レトモ川床ノ沿岸者ニ屬スルト公有ニ屬スルトヲ問ハス
漸次生シタル干潟ノ添附ハ旧川床ノ全幅員以外ニ広マルコ
トヲ得ス

此添附ノ權利ハ湖、池及ヒ海ノ干潟ニ付テハ存立セス但海
ノ干潟ハ財産編第二十三條ノ規定ニ從ヒテ國ニ屬ス

舟筏ノ通スル水流ニ於テ行政官ノ為シタル掘割又ハ堤防ノ
工事ニ因リテ干潟ト為リタル部分ハ沿岸者ヲ利セス但行政
法ノ規定ニ從ヒテ沿岸者ノ行フ先買權ヲ妨ケス

第十四條 河川ノ水ノ衝激カ沿岸地ノ一分ヲ割去シテ下流ノ

沿岸地又ハ対岸地ニ転送シ其孰レノ所有地ノ部分タルヤヲ
仍ホ認知ス可キトキハ占有ヲ失ヒタル所有者ハ變災ヨリ一
个年内ニ非サレハ此土壤ノ回復ヲ請求スルコトヲ得ス又一
个年後ニ於テハ沿岸者カ未タ之ヲ占有セサル間ノミ其回復
ヲ請求スルコトヲ得且所有者ハ自費ニテ其土壤ヲ收去シ又
收去ニ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

沿岸者ハ何時ニテモ右土壤ヲ回復スルカ又ハ単ニ之ヲ委付
スルカ其一ヲ選択セシムル為メ所有者ニ催告スルコトヲ得
樹木、收穫物、木材其他ノ動産物カ洪水ノ衝激ニ因リ押流
サレテ他人ノ土地ニ転徙シタルトキハ如何ナル方位ニ在ル
モ本條ノ規定ニ從フ但此等ノ物カ誰ノ所有タルヲ認知ス可
ク且漂流物ニ非サルコトヲ要ス

第十五條 舟筏ノ通スル河川ニ生シタル中洲ハ水流ノ等級ニ

從ヒテ國、府、県又ハ市、町、村ニ屬ス

舟筏ノ通セサル水流ニ生シタル中洲ハ川床ト同シク沿岸者
ニ屬ス

兩側ノ沿岸者ノ權利ヲ定ムルニハ水流ノ中心ニ縱線ヲ画シ
各沿岸者ハ自己ノ方ニ在ル中洲又ハ其部分ヲ利得ス

中洲カ一方ノ數箇ノ所有地ノ前面ニ在ルトキハ第十二條第
二項ノ規定ニ從フ

第十六條 或ル土地ヨリ割去セラレタル土壤カ水流中ニ止マ

リテ中洲ヲ成シタルトキハ所有者ハ其存在スル場所ニ於テ
之ヲ占有スルコトヲ得

然レトモ公有ノ水流ニ付テハ漸積ノ中洲ノ所有權ニ関スル
前條ノ區別ニ從ヒ國、府、県又ハ市、町、村ハ正當ノ償金
ヲ予メ払ヒテ其讓渡ヲ要求スルコトヲ得

第十七條 舟筏ノ通スルト否トヲ問ハス水流カ新ニ支流ヲ成
シ沿岸地ノ全部又ハ一分ヲ中洲ト為シタルトキハ此土地ノ
所有者ハ其所有權ヲ失ハス但前條ノ規定ニ因ル所有權徵收
ノ權利ヲ妨ケス

第十八條 二箇ノ土地ノ分界ヲ成シテ沿岸者ニ屬スル舟筏ノ
通セサル水流カ突然其水路ヲ全ク變シタルトキハ旧川床ノ
所有權ハ兩沿岸者ニ屬シ第十五條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ分割
ス

舟筏ノ通スル河川カ其水路ヲ變シ新河川ヲ成ストキハ浸没

地ノ所有者ハ其失ヒタル土地ノ割合ニ応シ其價トシテ旧川床ヲ取得ス但旧川床ノ面積カ浸没地ヨリ一層広キトキト雖モ右ノ割合ヲ以テ之ヲ取得ス

第十九條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引シ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ証シテ一週日間ニ之ヲ要求セサレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス

群ヲ為シテ他ニ移転シタル蜜蜂ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得

飼馴サレタルモ逃ケ易キ野栖ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一個月間其回復ヲ為スコトヲ得

第二節 動産上ノ添附

第二十條 (略。成案一四條と同一)

第二十一條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ為メ著シキ毀損、減価ヲ為シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ帰屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レヲ利シタル限度ニ応シ賠償ヲ負担ス

或ル物ノ便益、裝飾又ハ補完ノ為メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ審定ニ委ス

第二十二條 (略。成案一六條と同一)

第二十三條 物ノ分離ヲ為スコカラサル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ因ルモ主從ノ區別ヲ為シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第二十四條 (略。成案一八條と同一)

第二十五條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所為ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スルノ責ニ任セス添附ヲ為シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 (略。成案二〇條、二一條と同一)

第二十八條 前數條ニ定メサル動産物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且自然ノ公義ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ論點ヲ審定ス

第二十九條 (略。成案二三條と同一)

第三章 売買

第一節 売買ノ通則

第一款 売買ノ性質及ヒ成立

第三十條 売買ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支分權ヲ移転シ又ハ移転スルノ義務ヲ負担シ他ノ一方又ハ第三者カ

其定マリタル代金ノ弁済ヲ負担スルノ契約ナリ

売買契約ハ下ノ規定ニ從フノ外有償且双務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十一条 売買ハ当事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス

然レトモ当事者ハ売買ヲ各自ノ証書ニ供スル公正証書又ハ私署証書ノ録製ニ繋カラシムルコトヲ得

第三十二条 売渡又ハ買受ノ一方ノ予約アルトキハ要約者カ財産編第三百八条ノ条件ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其予約ニ於テ定メタル代価及ヒ条件ヲ以テ契約ヲ取結フノ義務ヲ負担ス

第三十三条 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ売買カ其相応ノ効力ヲ以テ成立シタリトノ判決ヲ為ス

不動産權ノ売買ニ関スルトキハ其判決ヲ登記ス
売買ノ予約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ノ縁辺ニ之ヲ附記ス其登記ハ売主ノ承継人ニ対シ既往ニ遡リテ効力ヲ生ス

第三十四条 売渡及ヒ買受ノ相互ノ予約アルトキハ当事者ノ一方ハ前条ニ從ヒ他ノ一方ニ対シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ当事者ノ意思ヲ解釈シ売買ノ予約カ即時ノ売買ノ効ヲ有シ又期間ヲ定メタルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用スルモノタルヲ判決スルコトヲ得

第三十五条 前四条ニ從ヒ当事者ノ双方又ハ一方カ日後売渡

及ヒ買受ノ契約ヲ取結ヒ又ハ単ニ証書ヲ録製スルノ義務ヲ負担シタル場合ニ於テ予約ノ担保トシテ手附ヲ与ヘタルトキハ契約ヲ取結ヒ又ハ証書ヲ録製スルコトヲ拒ム一方ハ其与ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十六条 即時ノ売買ニ於テハ手附ハ之ヲ与ヘタル者ノ利益ノ為メニノミ解約ノ方法ト為ル但手附カ金錢ナルトキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス

契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ為スコトヲ得ス

第三十七条 (略。成案三一条と同一)

第三十八条 前条ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ已レニ属スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ為サスシテ売渡物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買主ハ承諾シタリトノ推定ヲ受ケ

反対ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十九条 売買ノ代価ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルコトヲ要ス

又其代価ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市価ニ委セ或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評価ニ委スコトヲ得

右評価カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評価ニ異議ヲ為スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評価ヲ知りタル時直チニ之ヲ為スコトヲ要ス

第三者ト当事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ詐欺アルトキハ財産編第三百十二条及ヒ第五百四十三条ノ規定ヲ適用ス

当事者ノ定メタル代価ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヨリ成立スルコトヲ得然レトモ第三者カ代価ヲ定ムルトキハ其代価ハ元本ノミニ非サレハ成立スルコトヲ得ス但当事者カ明示ニテ一層広キ權限ヲ第三者ニ与ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第四十条 (略。成案三四条と同一)

第二款 売渡又ハ買受ノ無能力

第四十一条 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トヲ問ハス売買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負担スル真実且正当ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物弁済ヲ為スコトヲ得
右代物弁済ハ相当ノ疎明ヲ為セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有効且完全ナラス

又此代物弁済カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物弁済ハ証書ノ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セス

第四十二条 前条ニ基キタル銷除ノ訴權ハ売渡又ハ認許ナキ代物弁済ヲ為シタル配偶者、其相続人及ヒ承継人ノミニ屬ス但其訴權ハ財産編第五百四十三条以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第四十三条 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理者ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ売渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ公売上ノ取得者ト為ルコトヲ得ス
此制禁ハ公売ヲ処理シ又ハ指揮スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第四十四条 (略。成案三八条と同一)

第四十五条 判事、検事及ヒ裁判所書記ハ当事者ノ間ノ争ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト為ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ条件ヲ以テ弁護士及ヒ公証人ニ之ヲ適用ス

第四十六条 前条ヨリ生スル銷除訴權ハ讓渡人、權利ヲ争フ相手方、其双方ノ相続人及ヒ承継人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ争フ相手方、其相続人及ヒ承継人ハ讓受人ニ讓渡ノ現価ト弁済ノ日ヨリノ利息トヲ弁償シテ其權利ノ受戻ヲ為スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 売渡スコトヲ得サル物

第四十七条 売買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ処分ヲ禁シタル物ヲ目的トスルトキハ其売買ハ無効ナリ

此売買ノ無効ハ抗弁ニ依ルモ訴ニ依ルモ当事者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

当事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ売買ノ制禁ナルコトヲ隠蔽シタルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス

第四十八条 (略。成案四二条と同一)

第四十九条 売買契約ノ当時ニ於テ物カ全部滅失シタルトキハ其売買ハ無効ナリ但売主カ此滅失ヲ知りタルトキ又ハ売主ニ之ヲ知ラサルノ過失アルトキハ善意ノ買主ニ対スル損害賠償ヲ妨ケス

物カ一分ノミ滅失シ買主之ヲ知ラサリシトキハ買主ハ其選択ヲ以テ或ハ残余ノ部分カ用方ニ不十分ナルコトヲ証シテ売買ヲ銷除シ或ハ割合ヲ以テ代価ヲ減少シテ売買ヲ保持スルコトヲ得但右二箇ノ場合ニ於テ売主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

売買銷除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知りタル時ヨリ六ヶ月ヲ過キ又代価減少ノ請求ハ此時ヨリ二個年ヲ過クレハ之ヲ受理セス此他明示又ハ黙示ノ認諾ノ場合モ亦同シ

第二節 売買契約ノ効力

民法成立史一斑(七)

第一款 所有權ノ移転及ヒ危險

第五十条 売買契約ハ売渡物ノ所有權ノ移転及ヒ危險ニ付テハ財産編第三百三十一条、第三百三十二条、第三百三十五条及ヒ第四百九条ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第五十一条 (略。成案四五条と同一)

第二款 売主ノ義務

第五十二条 売主ハ定量物ノ所有權ヲ移転スルノ義務ノ外尚ホ売渡物ヲ引渡スノ義務、引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スルノ義務及ヒ妨碍、追奪ニ対シテ買主ヲ担保スルノ義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第五十三条 売主ハ売渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形状ニテ引渡スノ責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ対シテ賠償ヲ負担ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ為ササリシトキハ財産編第三百三十三条第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主カ代金弁済ニ付キ合意上ノ期間ヲ得サリシトキハ売主ハ其弁済ヲ受クルマテ売渡物ヲ留置スルコトヲ得売主ハ代金弁済ノ為メ期間ヲ許シタルトキト雖モ買主カ売買後ニ破産シ若クハ無資力ト為リ又ハ売買前ニ係ル無資力ヲ隠蔽シタルトキハ尚ホ引渡ヲ遅延スルコトヲ得

第五十四条 売主ハ契約ニ定メタル数量ヲ過不足ナク引渡ス

コトヲ要ス

然レトモ下ノ数条ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ売主又ハ買主ハ約シタル数量ヨリ多ク譲渡シ又ハ取得スルノ責ニ任ス

第五十五条〜第五十七条〔略。成案四九条〜五一条と同一〕

第五十八条 買主ハ面積不足ノ為メ代価減少ニ付キ権利ヲ有スル場合ニ於テ尚ホ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ其用方ニ必要ナルコトヲ証シ且面積ヲ担保セサル旨ノ明言ナキ売買ニ非サルトキハ契約ノ銷除ヲモ請求スルコトヲ得

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代価補足ヲ弁償スルコトヲ要スルトキハ單純ニ契約ヲ銷除スルコトヲ得

第五十九条 前記ノ規則ハ目方、員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調査スルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ売買ニ之ヲ適用ス

第六十条 〔略。成案五四条と同一〕

第六十一条 動産又ハ不動産ノ売買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十二条ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪担保ノ義務

第六十二条 他人ノ物ヲ売買シタル場合ニ於テ担保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モ無カリシトキハ買主カ未タ追奪ノ恐アルニ至ラス且契約ノ當時其物ノ売主ニ屬セサルコトヲ

知り売主カ之ヲ知ラサリシトキト雖モ買主ハ売買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得

第六十三条 〔略。成案五七条と同一〕

第六十四条 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尚ホ左ノ諸件ノ弁償ヲ受ク

第一 買主ノ支払ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支払ヒ所有者ヨリ其弁償ヲ得サル費用

第三 意外ノ事ニ因ルモ買受物ニ生シタル増価額

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果実

然レトモ買主ハ果実ニ換ヘテ之ニ対当スル期間ノ売買代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルコトヲ欲スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ対スル答弁ノ費用及ヒ担保請求ノ費用等總テノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第六十五条〜第六十六条 〔略。成案五九条〜六〇条と同一〕

第六十七条 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ売主ハ買主カ即時ニ担保訴權ヲ行フ為メ又ハ己レト立会ヒ第六十四条ニ從ヒテ現時負担ノ賠償額ヲ評定スル為メ買主ヲ遲滞ニ付スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ売主ハ其受取りタル代金ト共ニ右評価ノ金額ヲ提供シテ供託シタルトキハ縦令担保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負担セス

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財産編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル売主ハ再ヒ本條ノ許与セル權利ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十八條 他人ノ物ノ売主ハ日後其物ノ所有者ト為リタルトキハ買主ヲシテ売買ヲ認諾スルヤ担保訴權ヲ行フヤノ一ヲ択マシムルコトヲ何時ニテモ催告スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ売主ノ相続人ト為リタル真所有者ニ屬シ又真所有者及ヒ売主ニ相続シタル第三者ニ屬ス

第六十九條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ右ノ部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ広狭ニ因リテ有益ナルコトヲ証スルトキハ全部追奪ノ為メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ銷除スルコトヲ得

買主ハ契約ノ銷除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直接且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第七十條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ銷除スルノ權利ヲ有ス

買主ハ契約ノ銷除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ其部分ニ対当スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第七十一條 或ハ売買ノ土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人ヲ以テ設定シタル受方地役ニ関シ又ハ財産ノ一分ニ存スル利益權、質借權ニ関シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十九條ノ規定ヲ適用スル財産ノ全部ニ存スル利益權又ハ質借權ニシテ其經過ス可キ残余時期カ建物ニ付テハ一年土地ニ付テハ二個年ヲ超ユ可キトキハ賣買ノ財産ノ全部ニ存スル利益權又ハ質借權ノ繼續時期カ建物ニ付テハ一年土地ニ付テハ二個年ヲ超ユ可キトキハ買主ハ尚ホ自己ニ殘存セル權利ノ不十分ナルヲ証スルコトヲ要セスシテ前條ニ從ヒ賣買ヲ銷除スルコトヲ得

第七十二條 契約ニ於テ述ヘタルト否トヲ問ハズ賣買ノ土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ買主カ其代金ノ弁済ノ前又ハ弁済ノ時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル為メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ売主ノ債權者ノ為メニ所有權ヲ取上ケラレタルトキハ買主ハ賣主ニ對シ第六十四條及ヒ第六十五條ノ規定ニ從ヒテ担保ノ求償權ヲ有ス

第七十三條 差押ヘタル財産ノ競落者カ追奪ヲ受ケタルトキ

ハ被差押人ニ対シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配当ヲ受ケタル債権者ニ対シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落者ハ差押人カ差押ノ際ニ其財産ノ債務者ニ属セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ対シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者カ其財産ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱蔽シタルニ非サレハ之ニ対シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

公売条件書ノ録製及ヒ競落ノ処理ニ任シタル公吏ハ甚シク其職分ヲ缺キタル為メ買主ノ錯誤ヲ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第七十四条 債権ノ売主ハ当然自己ノ債権ノ存立及ヒ其有効ノ担保ニ任ス

又売主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ担保ヲ諾約シタルニ非サレハ其担保ニ任セス

有資力ノ担保ニ任シタル場合ニ於テモ売主ハ債権カ既ニ満期ト為リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル担保ノ明約ト裏書ヲ以テ讓渡ス商証券ノ特別規則トヲ妨ケス

未タ満期ト為ラサル債権ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ担保シタルトキハ其担保ハ

満期ヨリ一今年又無期年金權ニ付テハ其讓渡ヨリ十今年ニテ絶止ス

第七十五条 物上ト对人トヲ問ハス争ニ係ル權利ノ讓渡ニ於

テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ争アルコトヲ知リタルトキハ其主張ノ虚構ナラサルコトヲ担保スルノミニシテ讓渡シタル權利ノ真ノ成立ヲ担保セス

裁判上ト裁判外トヲ問ハス權原ニ關スル明白ノ争ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス

本条ニ定メタル担保ニ任スル讓渡人ハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正当ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負担ス

第七十六条 会社ニ於ケル自己ノ權利ヲ売渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其売買契約ニ示セル權利ノ広狭ニ付テノミ担保ニ任ス

会社ノ従前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算済ト為リタル売主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ホスコト無シ

売主ト会社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十七条 上ノ場合ニ於テ無担保ニテ売買スルトノ契約ヲ為シタルトキト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ売主ハ代金ヲ返還スルノ責ニ任ス但買主カ売買ノ時ニ於テ追奪ノ危険アルコトヲ了知シタルトキハ売主ハ此返還ヲ負担セス

売主ハ買主ノ危険負担ニテ売買スルトノ契約ヲ為シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スルノ責ヲ免カサル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ売主ハ売買ノ前後ヲ問ハス第三者ニ授与シタル權利ヨリ生スル妨碍又ハ追奪ノ担保ヲ免カサルコトヲ得ス

第七十八条ノ第七十九条〔略。成案七二条ノ七三条と同一〕

第三款 買主ノ義務

第八十条 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ弁済スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ヲ弁済スルコトヲ要ス

引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ当事者ニ代金ノ弁済ヲ暗ニ日後ニ延フルノ意思アリト推定ス

売主カ引渡ノ為メ恩惠期間ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金弁済ノ為メ同一ノ期間ヲ享有ス

代金弁済ノ恩惠期間ハ引渡ノ為メ売主亦之ヲ享有ス

第八十一条ノ第八十二条〔略。成案七五条ノ七六条と同一〕

第八十三条 買主カ物上訴権ニ因リテ妨碍ヲ受ケ又ハ妨碍ヲ受クルノ恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ売主カ其妨碍若クハ危険ヲ止マシメ又ハ追奪アリタルニ於テハ代金ヲ返還スルノ保証人ヲ立ツルマテ買主ハ此訴権ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ弁済ヲ拒ムコトヲ得

此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ証スルコトヲ得ルトキハ売買無効ノ判決ヲ求め及ヒ担保ノ訴権ヲ行フ買主ノ權利ヲ妨ケス

第八十四条 買受ケタル不動産ニ付キ抵当權又ハ先取特權ノ記入アルトキハ買主ハ滯留ノ方式ヲ行フタル後ニ非サレハ代金ヲ弁済スルノ責ナシ但法律上ノ期間ニ於テ滯留ヲ行フコトヲ要ス

第八十五条 前二条ノ場合ニ於テ売主ノ先取特權及ヒ第三者ニ対スル解除ノ權利ヲ保存スル為メ必要ノ方式ヲ行ハサルトキハ売主ハ当事者双方ノ名ヲ以テ買主ヲシテ猶予ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但其代金ハ当事者双方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ得ス

第八十六条 〔略。成案八〇条と同一〕

第三節 売買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十七条 当事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ缺キタルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一条乃至第四百二十四条ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

当事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期間ヲ許シシテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得ス然レトモ此解除ハ履行ヲ缺キタル当事者ヲ遲滞ニ付シタルモ猶ホ履行セサルトキニ非サレハ当然其効力ヲ生セス

第八十八條 買主カ弁済其他ノ義務ヲ缺キタル為メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ヲ負担スルコトヲ記載シ又ハ其責任タル他ノ負担及ヒ条件ヲ明示シタル売買証書ヲ登記シタルニ非サレハ売主ヨリ転得者ニ対シテ之ヲ請求スルコトヲ得ス但債權担保編第八十七條ノ規定ヲ妨ケス

第八十九條 弁済期限ノ定アル動産ノ売買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ弁済ヲ缺キタル為メノ売主ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ス

弁済期限ノ定ナキ売買ニ付テハ売主ハ引渡ヨリ八日内ニ売買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意ナル第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第九十條 売主ハ売買証書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ弁済シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルトキハ其売買ヲ解除スルノ權能ヲ要約スルコトヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五今年、動産ニ付テハ二今年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ当然之ヲ此期限ニ短縮ス

一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限内ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ再売買ノ予約ト看做スコトヲ得此場

合ニ於テハ第三十二條及ヒ第三十三條ノ規定ニ從フ
 売買後ニ於テ為シ又ハ別証書ヲ以テ為シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ

売主ハ代金ノ半額以上ノ弁済ノ為メ期限ヲ与へ且其期限カ受戻ノ為メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有効ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第九十一條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル条件ヲ以テ為シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授与シ又ハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排脫シテ其不動産ヲ売主ニ復セシム但貸借ノ殘期ノ一今年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ対シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第九十二條 売主ノ債權者ハ売主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得

然レトモ買主ハ右債權者カ予メ其債務者ノ無資力ヲ証シ且財産編第三百三十九條ニ從ヒテ受戻權能ノ行使ノ為メ裁判上ニテ売主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ価額ト第九十四條ニ從ヒテ売主ヨリ己レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ達スルマテ売主ノ債務ヲ弁済シテ債權者ノ訴ヲ止ムルコトヲ得

第九十三條 売主カ受戻ノ約款ニテ売渡シタル物ヲ日後抵当トシ又ハ之ニ其他ノ物權ヲ負担セシメタルトキハ其權利ノ効力ハ売主自身又ハ其債權者ノ受戻權能ノ行使ニ從フ

売主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ為スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ売主ノ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ妨礙スルコトヲ得ス但其担保訴權ヲ失フコト無シ

第九十四條 (略。成案八八條と同一)

第九十五條 受戻ノ約款アル売買カ不動産ノ不分ノ部分ヲ目的トシタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競売ニ因リテ其全部ノ競落人ト為リタルトキハ売主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競売ノ代金ヲ加ヘテ其全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ為スコトヲ得ス

又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得ス
買主カ自ら競売ヲ促シタルトキハ売主ハ其売渡シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ為スコトヲ得
又買主ハ全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

第九十六條 (略。成案九〇條と同一)

第九十七條 現物ヲ以テ分割シタルトキ売主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ売主ハ孰レヨリ分割ヲ促カシタルヲ問ハス他ノ所有者ニ帰シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ為スコトヲ得スシテ買主ニ帰シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得

但買主ノ供与シ又ハ受取リタル補足代金ヲ当事者互ニ計算スルコトヲ妨ケス

売主カ分割ニ召喚セラレザリシトキハ売主ハ選択ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第九十四條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ弁償シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

第九十八條 不分物ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ売渡シタルトキハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クルノ責ナシ

又買主ハ売主ノ一人ヨリ為ス全部ノ受戻ニ故障ヲ述フルコトヲ得

唯一人ノ売主カ数人ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルトキモ亦本條ノ規定ニ從フ

之ニ反シテ数人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ売渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ為スコトヲ得但第九十五條及ヒ第九十七條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十九條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ為ササル前ニ受戻ヲ為サント欲スルニ於テハ売主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ為スコトヲ得

既ニ分割ヲ為シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競

売ニ因リテ其各自ニ帰シタル部分ニ付テノミ受戻ヲ為スコトヲ得

唯一人ノ買主カ数人ノ相続人ヲ遺シテ死亡シタルトキモ亦本条ノ規定ニ従フ

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル売買廢却訴權

第百条 (略。成案九四条と同一)

第百一条 買主カ隠レタル瑕疵ノ売買廢却訴權ヲ行フ程ニ重大ナルヲ証スルコト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ応シテ代価ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第百二条 (略。成案九六条と同一)

第百三条 隠レタル瑕疵ヲ担保セストノ要約ハ売主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隠レタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第百四条 (略。成案九八条ノ九九条と同一)

第百六条 隠レタル瑕疵ニ基キタル代価減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ讓渡シタルモ之ヲ失ハス但有償ノ讓渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ為メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ買主自ラ讓受人ヨリ訴ヘラレ若クハ訴ヘラルルノ危険ニ在ルトキニ限ル

第百七条 (略。成案一〇一条ノ一〇二条と同一)

第百九条 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付キ特別法

ヲ以テ其売買上ノ効果ヲ定ムルニ至ルマテ本法ノ規定ヲ此等ノ物ノ売買ニ適用ス

第四節 不分物ノ競売

第百十条 不分財産ノ分割ヲ為スニ当リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルトキハ其財産ノ協議賣却又ハ競売ヲ為シ各有權者ノ權利ノ限度ニ応シテ其代金ヲ配当ス

第百十一条 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ為シ又ハ相互ノ間ニ競売ヲ為スニ付キ一致ヲ得ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ不分物ノ競売ハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公吏ノ前ニ於テ之ヲ為ス但民事訴訟法ニ定メタル競売方式ニ従フコトヲ要ス

共同競売者ノ各自ハ常ニ競売ニ付キ外人ノ参加ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無能力ナルトキハ外人ノ参加ハ当然且必要ナリトス

第百十二条 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競売又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ行為ト看做サレ会社及ヒ相続ノ分割ニ関シ規定シタル効力ヲ生ス

第三者ニ競落又ハ協議賣却ヲ為シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シタル賣買ノ効力ヲ生ス

第四章 交換

第百十三条 交換ハ当事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權

利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ諾約セシメ其対価トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移転シ又ハ移転スルコトヲ諾約スルノ契約ナリ

相互ノ權利ノ価額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス

金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ価額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ売買ト看做ス

第百十四條 当事者ハ交換ニ供シ又ハ諾約シタル物又ハ權利

ニ対スル妨碍及ヒ追奪ノ担保ヲ相互ニ負担ス

当事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其選択ヲ以テ或ハ金錢ノ対価ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供与シタルモノヲ取戻スコトヲ得但孰レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付キ權利ヲ取得シタル第三者ニ対シテ之ヲ行フコトヲ得ス但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ名義ノ登記又ハ記入ヲ為シタルコトヲ要ス

第百十五條 売買ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ為スコトヲ許ス但交換物ノ価額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ贈与ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スルノ規則ヲ適用ス

当事者ノ一方又ハ双方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタルトキハ第三十三條ニ從ヒ売買ノ予約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル条件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第百十六條 和解ハ当事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ為シテ既ニ生シタル争ヲ落着セシメ又ハ生スルコト有ル可キ争ヲ予防スルノ契約ナリ

和解ノ成立、有効及ヒ証拠ハ下ノ規定ヲ除クノ外合意ニ関スル一般ノ規則ニ從フ

第百十七條 第百十八條 [略。成案一一一條〜一二條と同一]

第百十九條 定マリタル争ニ付キ為シタル和解ハ新ニ発見シタル証書ニ因リテ当事者ノ一方カ争ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且争フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ為メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得

確定シタル判決又ハ攻撃スルヲ得サル契約ヲ以テ既ニ争ヲ落着セシメタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ルニ利益アル当事者カ之ヲ知ラサリシトキモ亦同シ

然レトモ和解カ従前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ争ヲ落着セシメ又ハ之ヲ予防スルヲ目的トシタルトキハ當

事者ノ一方ノ利益タル確定証書ノ發見ハ其証書カ相手方ノ所為ニ因リテ扣留セラレタルニ非サレハ其和解ノ銷除ヲ生セス

第二百二十条 有効ノ和解ハ当事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ予見シタル争ノ目的タルモノニ付テハ当事者間ニ在テハ確定判決ノ權利認定ノ効力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但当事者双方ニ更改ヲ為スノ意思アリシトキハ此限ニ在ラス

之ニ反シテ相互ニ供与シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ争ノ目的タラサリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移転シ若クハ之ヲ消滅セシムル有價名義ニ関スル合意ノ規則ニ從フ

第六章 特定会社

第一節 会社ノ性質及ヒ設立

第二百一十一条 凡ソ会社ハ數人カ各自ニ配当ス可キ利益ヲ取ムル為メ財産ヲ共通シ又ハ共通スルコトヲ諾約スルノ契約ナリ

特定会社ハ或ル物ヲ共通シテ利用スル為メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ営ム為メ各社員カ定マリタル物ノ出資ヲ為シ又ハ之ヲ諾約スルノ会社ナリ

第二百二十二条 商事会社ニ特別ナル規則ハ商法又ハ特別法ヲ

以テ之ヲ定ム

第二百二十三条 (略。成案一一七条と同一)

第二百二十四条 民事会社ハ当事者ノ意思ニ因リテ之ヲ無形人ト為スコトヲ得

此場合ニ於テハ会社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事会社ノ公示ノ為メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス

第二百二十五条 合意ノ一般ノ規則殊ニ当事者ノ承諾、能力、

目的、原因及ヒ証拠ニ関スルモノハ会社ニ之ヲ適用ス

第二百二十六条 (略。成案一一〇条と同一)

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第二百二十七条 会社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ黙示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ条件ヲ帶ハシメタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ会社ノ開始スル時ニ於テ其諾約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レサルトキハ其社員ハ当然出資ニ生スル果実及ヒ利息ヲ負担ス且遲延ノ為メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金銭ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負担ス

第二百二十八条 会社ニ對シテ技術又ハ勞力ノ出資ヲ諾約シタル社員カ其諾約ヲ缺キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ選択ニ從ヒ会社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル当時ヨリ会社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ会社外ニ用キテ

得タル利益ヲ交付スルノ責ニ任ス

第二百二十九条〔略〕第三百十条〔略〕成案一二三条〜一二四条
と同一)

第二百三十一条 会社契約ヲ以テ業務担当人ヲ選任セサル場合
ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セサルノ間ハ社員ノ各自
ハ前条ニ規定シタル行為ヲ同一ノ条件ニ從ヒテ為スノ權ヲ
有ス

第二百三十二条 会社契約ヲ以テ業務担当人ニ選任セラレタル
社員ハ正当ノ原因アルトキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ
得タルトキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ
得ス

会社契約以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務担当人ハ之ヲ選
任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セスシテ之ヲ解任
スルコトヲ得

第二百三十三条〜第三百三十四条 (略) 成案一二七条〜一二八
条と同一)

第三百三十五条 第三者カ会社ト業務担当社員ノ一人トニ對シ
テ同性質ノ債務ヲ負担シタルトキ其第三者カ二箇ノ債務ヲ
消滅セシムルニ足ラサル金銭又ハ有価物ヲ右社員ニ弁済ス
ルニ於テハ其社員ハ会社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合
ニ応スルニ非サレハ自己ノ債權ノ弁済ニ之ヲ充當スルコト
ヲ得ス但債務者ノ為シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正当ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部
ニ充當シタルトキハ社員ハ其弁済ノ額内ヨリ右ノ割合ニ応
スル部分ヲ会社ニ交付スルノ責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有効ナル充當ヲ為ササルトキハ財産編第
四百七十二條ニ從ヒテ法律上ノ充當ノ規則ヲ適用ス

第三百三十六條 (略) 成案一三〇条と同一)

第三百三十七條 業務担当人タルト否トヲ問ハス各社員ハ其過
失又ハ懈怠ニ因リテ会社ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ
任ス

此損害ハ社員カ会社營業ノ他ノ事件ニ付キテ会社ニ得セシ
メタル利益ト相殺スルコトヲ得ス但其事件ノ互ニ牽連シタ
ルトキハ此限ニ在ラス

第三百三十八條 会社契約ヲ以テ支配人ヲ選任セサル為メニ業
務ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於ケルト同一ノ注意ヲ加ヘ
サルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス

第三百三十九條 各社員ハ会社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得
ル金額ナキトキハ会社ノ所屬物ニ関スル必要及ヒ保持ノ費
用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ応シテ分担スルノ責ニ任ス

第四百十條 右ニ反シテ業務担当人タルト否トヲ問ハス各社
員ハ会社ヲシテ自己ノ出資外ニ会社ノ為メ有益ニ立替ヘタ
ル金額ヲ返還セシメ又ハ会社ノ利益ノ為メ善意ニテ負担シ
タル義務ヲ認諾セシメ又ハ会社ノ營業ノ為メ自己ノ財産ニ

受ケタル避クルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

第四百十一条 (略。成案一三五条と同一)

第四百十二条 社員ハ会社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル其相互ノ持分ヲ会社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ随意ニ定ムルコトヲ得但第四百十四条ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第四百十三条 社員ハ其一人又ハ数人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルコトヲ得

然レトモ利益ノミヲ予見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタルトノ推定ヲ受ク

如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ扣除シ会社ノ貸方トシテ残ル所ノモノニ非サレハ配当ス可キノ利益ト看做サス又右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ残ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス

然レトモ会社ノ存立中ニ詐欺ナクシテ為シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配当ハ之ヲ變更セス

第四百十四条 会社資本ノ全部又ハ会社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ帰ス可キ約款ハ無効ナリ

技術又ハ勞力ヲ出資ト為シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負担ヲ免カレシム可キ約款モ亦同シ

会社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ

其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ会社ノ清算ハ第四百七条ニ從ヒテ之ヲ為ス

第四百十五条 社員ハ自己ノ選任シ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ数人ノ仲裁人ヲシテ会社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ会社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得

仲裁人ノ為シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ法律上ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル条件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知りタルヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ之ヲ受理セス

第四百十六条 (略。成案一四〇条と同一)

第四百七条 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ為サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト為リタルトキハ会社資本本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應シテ之ヲ其間ニ配当ス

社員ノ出資ト為シタル技術又ハ勞力ノ評價ナキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ価額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財産トヲ出資ト為シタル社員ハ前項ニ定メタル価額ノ外尚ホ其財産ノ価額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ

配当ヲ受ク

第四百四十八條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシメ又

其持分ヲ買入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行
為ハ之ヲ以テ会社ニ對抗スルコトヲ得ス但会社契約ヲ以テ
社員ニ此權利ヲ認許シタルトキハ此限ニ在ラス

右ノ場合ニ於テ会社社員ノ讓渡サント欲スル持分ヲ消却
スル為メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サン
トスル社員ハ会社カ其先買權ヲ行フカ抛棄スルカニ付キ之
ヲ遲滞ニ付スルコトヲ要ス

第四百四十九條 業務担当人カ会社ノ名ヲ以テ又ハ会社ノ營業
ノ為メ有効ニ負擔シタル義務ハ会社カ無形人ヲ成セルトキ
ハ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先チテ会社資本ヲ以テ之ヲ担
保ス

会社資本ノ不十分ナル場合又ハ其資本カ訴追シタル債權者
ニ示サレサル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ会社ノ義務ヲ
負擔ス会社カ無形人ヲ成ササルトキモ亦同シ

右ノ場合ニ於テ各社員間ノ決算ハ第四百四十二條乃至第四百
七十七條ニ規定シタル貸方及ヒ借方ニ於ケル各自ノ持分ニ從
ヒテ之ヲ為ス

第三節 会社ノ終了

第一百五十條 会社ハ左ノ諸件ニ因リテ当然終了ス

第一 会社契約ヲ以テ指定シタル時期ノ滿了又ハ解除條

民法成立史一斑 (七)

件ノ成就

第二 会社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

第三 会社資本ノ全部又ハ半額ヲ超ユル損失

第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ収益ヲ以テスル繼續
ノ出資ヲ為スノ不能

第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治産、破産又ハ顯然ノ無資
力但第五百三十三條ノ規定ヲ妨ケス

第五百四十一條ノ第五百四十二條 (略) 成案一四五條ノ一四六
條ノ同一)

第五百四十三條 社員ハ第五百十條第五号ニ掲ケタル原因ニ由
リテ会社ヲ解散セス且闕員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ
繼續スルヲ合意スルコトヲ得

又社員ハ死亡シタル社員ノ相続人又ハ無能力ト為リタル社
員ト共ニ会社ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ相続人又ハ無能力者ノ合式ノ代理人ノ
新ナル承諾ヲ要ス

第四節 会社ノ清算及ヒ分割

第五百四十四條 (略) 成案一四八條ノ同一)

第五百四十五條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 着手シタル業務ノ成就

第二 会社ノ債務ノ弁済及ヒ其第三者ニ対スル債權ノ取
立

第三 各社員ト会社トノ間ノ特別ナル計算ノ定方

第四 分割ス可キ貸方又ハ負担ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第五百五十六條 (略。成案一五〇条と同一)

第五百五十七條 清算人ハ如何ナル場合ヲ問ハス速ニ毀損又ハ

滅尽ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ要ス

満期ト為リタル債務ノ弁済ノ為メ必要ナルトキハ此他ノ動

産ヲ讓渡スコトヲ得

不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非

サレハ之ヲ抵当トシ又ハ讓渡スコトヲ得ス

前項ノ讓渡ハ協議上ニテ約束スルヲ許シタル場合ノ外ハ公

売競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ為スコトヲ得ス此等ノ処分ハ

總テ社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ為スコ

トヲ得

清算人カ会社ノ債務又ハ債権ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲

裁ハ第三者ト通謀シタル詐欺ノ為メニ非サレハ之ヲ攻撃ス

ルコトヲ得ス

第五百五十八條 清算ノ總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要

ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レリ

トス

此議決ハ總計算ヲ合セテ之ヲ為シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付

キ各別ニ之ヲ為スコトヲ得

認可ヲ得ス且仕直スコトヲ得ヘキ計算ハ清算人其費用ヲ以

テ之ヲ為ス若シ仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ

規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス

清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前条ニ從ヒテ為シタル

行為ハ常ニ善意ナル第三者ノ為メニ之ヲ維持ス

第五百五十九條 (略。成案一五三條と同一)

第六十條 分割部分ノ組成又ハ各当事者ニ對スル配付ニ付

キ当事者ノ一致セサルトキハ相統其他財産共通ノ分割ノ為

メ本法及ヒ民事訴訟法ニ定メタル規則ニ從フ

第六十一條 会社資本中ノ物ニシテ分割ニ因リ各社員ニ歸

シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ会社解散ノ日ニ遡リテ

効力ヲ有シ不分中ニ於テ他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ

授与シタル權利ハ之ヲ解除ス

第六十二條 分割者ハ分割ニ因リテ諾約セラレタル權利ノ

上ニ受クルコト有ル可キ妨碍及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分

ニ應シテ相互ニ担保ヲ為ス

分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負担シタル賠償

ノ部分ハ被担保人ヲ併セテ他ノ各共同分割者ノ間ニ之ヲ分

ツ

第七章 射倖契約

總則

第六十三條 射倖契約トハ當事者ノ双方若クハ一方ノ損益ニ付キ其効力ノ全部又ハ一分ヲ將來ノ不確定ナル事件ニ繫クルモノヲ謂フ

第六十四條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ

博奕、賭事、終身年金權其他終身權利ノ設定、陸上、海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射倖ノモノナリ

其他成立又ハ効力ヲ停止又ハ解除ノ未必條件ニ繫クル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル射倖ノモノナリ

第六十五條 〔略。成案一五九條と同一〕

第一節 博戲及ヒ賭事

第六十六條 博戲ハ博戲者ノ勇氣、力量、巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體驅運動ヲ目的トスルニ非サレハ其義務履行ノ為メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體驅運動ヲ為ス人ノ為メ又ハ賭者ノ直接ニ為ス農工商ノ業事ノ成功ノ為メニスルニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有価物カ情況ニ照シテ過度ナリト見ユルトキハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得スシテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第六十七條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ何等ノ義務ヲ

モ生セス且其債務ノ追認、更改又ハ保証ハ總テ無効ナリ然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ弁済ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六十八條 〔略。成案一六二條と同一〕

第六十九條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ銷除ノ抗弁ヲ申立テサルトキハ判事ハ職權ヲ以テ其抗弁ヲ補足スルコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博戲、富講又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第七十條 終身年金權ハ動産若クハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬トシ又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有價名義ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又終身年金權ハ有價又ハ無價ノ名義ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

又贈与又ハ遺贈ヲ以テ無價名義ニテ之ヲ設定スルコトヲ得第七十一條 終身年金權ハ有價物ノ供与者ニ非サル人ノ利益ノ為メ之ヲ要約スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有價名義ノ契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈与ノ規則ニ從フト雖モ贈与ノ方式ニ從フト要セス

第七百七十二條〜第七百七十三條〔略。成案一六六條〜一六七條と同一〕

第七百七十四條 有償名義ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ為メ終身ヲ期セラレタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者双方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ

右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ為メ六十日內ニ死亡シタルトキハ其契約ハ当然之ヲ解除ス

第七百七十五條 無償名義ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

養料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ当然讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈与者ノ利益ノ為メ贈与財産ノ上ニ留存シタル終身年金權及ヒ支払時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第七百七十六條〔略。成案一七〇條と同一〕

第二款 終身年金權ノ契約ノ効力

第七百七十七條〜第七百七十八條〔略。成案一七一條〜一七二條と同一〕

第七百七十九條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支払ノ欠缺ノ為メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債

務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ売却セシメ其売却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支払ニ充ツルコトヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス終身年金權ヲ無償名義ニテ設定シ又ハ贈与若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト同一ニ処弁ス

第七百八十條〔略。成案一七四條と同一〕

第三款 終身年金權ノ消滅

第七百八十一條 有償名義ノ終身年金權ノ債務者カ年金支払ノ為メ諾約シタル担保ヲ供セス又ハ供シタル担保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得但既ニ取得シタル年金ノ何等ノ部分ヲモ返還スルノ責ナシ

贈与又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス

右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ為メ終身ヲ期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セス

第七百八十二條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢罷ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用ス

終身年金權ハ此他尚ホ更改、合意上ノ免除、混同、時効及ヒ要約シタル買戻ニ因リテ消滅ス

然レトモ終身年金權カ第七百七十五條及ヒ第七百七十六條ニ從ヒ法律又ハ契約ニ依リテ讓渡スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サルモノナルトキハ其年金權ハ時効ニ罹ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支払時期後五今年ニシテ時効ニ權ル

第八十三條 終身年金權ハ其設定ノ為メ終身ヲ期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但第七十四條ノ規定ヲ妨ケス然レトモ終身ヲ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償名義ニテ又ハ贈与若クハ遺贈ノ負担トシテ設定シタリシトキハ其契約又ハ惠与ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支払ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル財産ヲ返還ス

右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈与シ又ハ遺贈シタリシトキハ年金ノ支払ハ裁判所カ終身ヲ期セラレタル人ノ生命ノ継続期ト推測スル期間之ヲ継続セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第八十四條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負担スルノ契約ナリ

第八十五條 (略。成案一七九條と同一)

第八十六條 意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ貸借ヲ為シタル時日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ価額ヲ負担ス

第八十七條 (略。成案一八一條と同一)

民法成立史一斑 (七)

第八十八條 貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル隠レタル瑕疵アリテ其瑕疵カ身体又ハ財産ニ損害ヲ加フ可キ性質ニシテ且實際借主ニ損害ヲ加ヘタルトキハ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ自己ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルニ非サレハ其損害ノ責ニ任セス

此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セサリシ隠レタル瑕疵ト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其責ニ任ス

此他売買廢却訴權ニ関スル第一百零五條乃至第一百七條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

第八十九條 財産編第四百六十四條乃至第四百六十七條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ為シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ財産編第四百六十六條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル価額ノ弁済ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ弁済ヲ受クルコトヲ要約スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ対當ノ価額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第九十條ノ第九十二條 (略。成案一八四條ノ一八六條と同一)

第九十三條 合意上ノ利息ハ法律ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス但法律ヲ以テ特ニ制禁セサル場合ハ此限ニ在ラス

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律

ノ制限ニ減却シ此制限ヲ超エテ為シタル弁済ハ之ヲ元本ノ弁済ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債権者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超ユル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正ノ利息ノ全部又ハ一分ヲ隠蔽シタルトキハ債務者ハ其不正ノ利息ノ何等ノ部分ヲモ弁済スルコトヲ要セス若シ之ヲ弁済シタルトキハ其全部ヲ取戻スコトヲ得

第九十四條 貸主ハ支払時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ為サシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ反對ノ証拠アルマテ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク

第九十五條 十個年ヲ超ユル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ為シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十個年後ハ常ニ弁済ヲ為スノ權能ヲ有ス

然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尚ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ弁済スルトキハ其取越弁済ヲ為スコトヲ得ス

第九十六條 第九十二條乃至第九十五條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ニ非サル金錢又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上、法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

第二節 無期年金權ノ契約

第九十七條 貸主カ元本ノ要求ヲ為スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ

設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス第九十八條 無期年金ノ債務ヲ負担スル借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ノ弁済ヲ為スコトヲ得

然レトモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ弁済ヲ為サルヲ約スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十個年ヲ超ユルコトヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ十個年ニ短縮ス

弁済ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス債務者ハ六个月前ニ弁済ヲ為スノ意思ヲ債権者ニ予告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ弁済ヲ為サルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ弁済ノ強要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第九十九條 債務者ハ財産編第四百五條第一号乃至第三号ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付遲滞ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ弁済ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本弁済ノ強要ヲ受ク

此末ノ場合ニ於テ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠期間及ヒ分割弁済ヲ許スル裁判所ノ權ヲ妨ケス

第二百条 前二条ノ規定ハ不動産讓渡ノ代価若クハ条件トシテ設定シ又ハ無償名義ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ弁済ハ当事者ノ評定シタル元本若シ評定セサリシトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ為ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ元本ノ弁済ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十年間ノ其日用品ノ平均代価ヲ年金ノ基礎ト為シテ之ヲ為ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第二百一条 使用貸借ハ当事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ為メ之ニ動産物又ハ不動産物ヲ交付シ明示又ハ黙示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負担スルノ契約ナリ

此貸借ハ本来無償ナリ

第二百二条 借主ハ使用ノ物權ヲ取得セス單ニ貸主及ヒ其相続人ニ対シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相続人ニ移転セス但其相続人カ当事者ノ意思ノ之ニ異ナルコトヲ証スルトキハ此限ニ在ラス又其相続人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル為メ裁判所ヨリ返還猶予ノ期間ヲ受クルコトヲ妨ケス

民法成立史一斑(七)

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第二百三条ノ第二百五条〔略〕成案一九七条ノ一九九条ト

同一

第二百六条 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リタルトキハ亦同シ尚ホ第二百九条第二項ノ規定ヲ妨ケス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用力繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ為メ相応ナル時期ヲ定ム

第二百七条〔略〕成案二〇一条ト同一

第二百八条 數人連合シテ同時又ハ交互ニ用ユル為メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自連帶ニテ前記ノ義務ヲ負担ス

第二百九条 貸主又ハ其相続人ハ明示又ハ黙示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且予期セサル要用ノ生シタルトキハ貸主又ハ其相続人ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ為サシムルコトヲ得

第二百十條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ為メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ弁償スルノ責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ為メニ借主ノ受ケタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス但其瑕疵ハ隠レタルモノニシテ借主之ヲ了

知セス貸主之ヲ了知シ且借主ニ書ヲ加フルノ意思アリタルトキニ限ル

第二百十一条〔略。成案二〇五条と同一〕

第十章 寄託及ヒ管守

第一節 寄託

第二百十二条 寄託ハ一人カ動産物ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ

看守シ要求次第直チニ原物ヲ返還スルノ契約ナリ

寄託ハ本来無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百十三条〔略。成案二〇七条と同一〕

第二百十四条 寄託ハ所有者ノミナラス尚ホ物ノ看守及ヒ保

存ニ付キ利益ヲ有スル人又ハ其代理人之ヲ為スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ為スコトヲ得

第二百十五条 寄託ハ契約ヲ為スノ能力ヲ有スル者ニ非サレ

ハ之ヲ受クルコトヲ得ス

然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又

ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其實ニ任ス

但背信ノ為メノ公訴ヲ妨ケス

第二百十六条 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己

ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ為スコトヲ要ス

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ単ニ自己ノ利

益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ為スノ責ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第二百四条ノ規定ヲ適用ス

第二百十七条、第二百十九条〔略。成案二二一条、二二三

条と同一〕

第二百二十条 受寄者ハ其收取シタル果実及ヒ産出物又ハ之

ヲ金銭ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返

還スルコトヲ要ス但前条ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル権利若クハ利益ヲ

取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移転スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱窃シタル

トキハ遲滞ニ付セララルコト無クシテ当然損害賠償ノ責ニ

任ス但背信ノ為メノ公訴ヲ妨ケス

第二百二十一条〔略。成案二一五条と同一〕

第二百二十二条 寄託物ノ返還ハ寄託者若クハ其相続人又ハ

其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ為スコトヲ要ス

第二百二十三条 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ受寄者

カ受寄物ヲ移置シタルモ詐欺ナキトキハ受寄物ノ現在ノ場

所ニ於テ之ヲ返還ス

第二百二十四条 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ

義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルヲ証スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次条ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

キ

第三 受寄者カ払渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知りタルトキ

此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其寄託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相応ノ期間ニ寄託者ト立会ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立会ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ為ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百二十五条 (略。成案二一九条と同一)

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十六条 寄託者カ火災、洪水、難船、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ已ムヲ得ス寄託ヲ為シタルトキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ諸般ノ方法ニ依リ又ハ情況ヨリ生スル事実ノ推定ニ依リテ之ヲ証スルコトヲ得

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十七条 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ携帯シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト

民法成立史一斑(七)

看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業者モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本条ノ受寄者ハ有價名義ニ於ケル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 管守

第二百二十八条 管守トハ数人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

管守ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

管守ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十九条 合意上ノ管守ハ其管守ニ付テモ管守人ノ選定ニ付テモ当事者ノ承諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ管守人ハ当事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ当事者ノ一人ヲ管守人ニ選任スルコトヲ得

第二百三十条 合意上ト裁判上トヲ問ハス管守人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ管守人ハ善良ナル管理者ノ通常ノ注意ヲ管守物ニ加フルノ責ニ任ス

第二百三十一条 裁判上ノ管守人ハ財産編第一百九条ニ從ヒテ管守物ヲ質貸スルコトヲ得然レトモ合意上ノ管守人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受ケタルニ非サレハ質貸スルコトヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ管守人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回収スル為メ占有訴權ヲ行フコトヲ得

管守人ノ占有ハ争訟ニ於テ確定ニ勝ヲ得タル当事者ヲリス

第二百三十二条 管守ニ付シタル物ハ勝ヲ得タル当事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ管守人ハ判決ノ確定前ニ自己ノ責任ヲ免カルル為

メ当事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求ムルコトヲ得

第二百三十三条 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ管守ハ尋常ノ寄託ノ規則ニ從フ

第二百三十四条 差押物ニ於ケル裁判上ノ管守及ヒ債務者カ

弁済ニ提供シテ債權者ノ受取ルコトヲ拒ミタル金銭若クハ

有価物ノ供託ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百三十五条 代理ハ当事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ

為メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スルノ契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ為メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ

行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリ

仲買契約ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十六條 第二百三十七條 (略。成案二三〇條 二

三一條 同一)

第二百三十八條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ

總理代理ハ為ス可キ行為ノ別段ノ定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理行為ノミヲ包含ス

代理カ或ハ管理或ハ処分或ハ義務ニ関シテ一箇又ハ數箇ノ

限定セル行為ヲ目的トスルトキハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十九條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトヲ問ハス

其目的タル行為ヨリ必然ニ生ス可キ事柄ヲ暗ニ包含ス

然レトモ元本ヲ諾約スルノ委任ハ其弁済ヲ為スノ委任ヲ包

含セス

元本ヲ要約スルノ委任ハ其弁済ヲ受クルノ委任ヲ包含セス

訴訟ヲ為スノ委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取

下ケ又ハ和解ヲ為スノ委任ヲ包含セス

和解ヲ為スノ委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ争論ヲ裁決セ

シムルノ委任ヲ包含セス

仲裁人ヲ選任スルノ委任ハ和解ヲ為シ又ハ裁判所ヲシテ其

争論ヲ裁決セシムルノ委任ヲ包含セス

第二百四十條 (略。成案二三四條 同一)

第二百四十一條 代理人ハ其管理行為ノ全部又ハ一分ニ付キ

他人ヲシテ自己ニ代ハラシムルコトヲ得但此ヲ明示ニテ禁

止セサルトキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ専ラ代理人ノミニ委

任シタリト看做ス可カラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理

人ハ自己ノ管理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責ニ任ス

委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其選択ニ從フ

コト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任スルコトヲ得ス代理
人カ其選任ニ從ヒタル場合ニ於テハ代理人ハ其復代人ノ無
能又ハ不誠実ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ
復代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ任セス
委任者ノ禁止シタルニ拘ハラズ復代人ヲ選任シ又ハ其許諾
セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ代理人ハ意外ノ事又ハ
不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責ニ任ス但此復代
人ノ選任ヲ為ササレハ其損害ノ生セサル可キトキニ限ル

第二百四十二條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者
ハ復代人ニ對シ其管理ニ関スル訴權ヲ直接ニ行フコトヲ得
又之ニ對シ同一ノ名義ニテ直接ニ責任ヲ負担ス
同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接訴權ト代理人ノ名ヲ
以テスル間接訴權トノ間ニ選任權ヲ有ス然レトモ直接訴權
ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做
ス

第二節 代理人ノ義務

第二百四十三條 代理カ第四節ニ列記シタル原因ノ一ニ由リ
テ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ
自己ノ了知シタル委任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就
スルノ責ニ任ス此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負担ス
全部ノ履行ヲ為スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サ
レハ代理人ハ一分ノ履行ヲ為スノ責ナク且之ヲ為スコトヲ

得ス

第二百四十四條 指定ノ代価ニテ物ヲ買入ルルノ委任ヲ受ケ
タル代理人カ其指定ヲ超ユル代価ヲ以テスルニ非サレハ之
ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入
ノ認諾ヲ委任者ニ要求スルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ弁
濟シタル代価ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得
物ヲ売却スルノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ
代価以下ニテ之ヲ売却シタルトキハ代理人ハ代価ノ差額ヲ
補足シテ其売却ヲ認諾セシムルコトヲ得

第二百四十五條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付
テハ善良ナル管理者ノ注意ヲ為スノ責ニ任ス
然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ
査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ為ストキ

第二 代理人カ自ら求メテ代理ヲ為シタルニ非サルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之
ヲ推量シタルトキ

第四 代理人カ管理ノ或ル行為ニ付キ委任者ヲシテ其予
期セサリシ利益ヲ得セシメタルトキ

第二百四十六條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ証拠書類
ヲ添ヘテ其計算ヲ為スノ責ニ任ス其終了前ト雖モ委任者ノ
之ヲ求メタルトキハ亦同シ

第二百四十七条 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ関シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有価物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正当ニ受取ルコトヲ得ス又ハ代理人ニ受取ルコトヲ許ササリシ金額若クハ有価物ト雖モ之ヲ受取リタルトキハ亦同シ然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ受取ル可キ金額ヲ扣除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ怠リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ滅失セシメタル金額若クハ有価物ノ価額ヲ前数条ニ依リテ負担スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

第二百四十八条〜第二百四十九条 (略。成案二四二条〜二四三条と同一)

第二百五十条 代理人カ委任者ノ為メ其名ヲ以テ第三者ト為シタル行為ノ履行ニ付テハ代理人ハ其第三者ニ対シテ責任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ対シテ已レノ有セサル権限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百五十一条 委任者ハ代理人ニ対シテ左ノ義務ヲ負担ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ為メ支出シタル立替金又ハ正当ノ費用ノ弁償及ヒ其支出シタル日以来ノ法律上ノ利息ノ弁償

第二 合意シタル謝金ノ弁償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ為スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償但予見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ謝金ヲ諾約スルノ理由ト為リタルモノハ此限ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負担シタル一身上ノ義務ノ免責又ハ其賠償

第二百五十二条 (略。成案二四六条と同一)

第二百五十三条 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負担セス但一分ツツ弁済ス可キコトヲ要約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ帰セサル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨碍アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ応シテ委任者之ヲ負担ス

第二百五十四条 (略。成案二四八条と同一)

第二百五十五条 数人カ唯一ノ証書又ハ各別ノ証書ヲ以テ共同事件ノ為メ代理ヲ委任シタルトキハ委任者ノ各自ハ連帯シテ前記ノ義務ヲ負担ス但反対ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十六条 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニ

テ約束セシ第三者ニ対シテ負担シタル義務ノ責ニ任ス
委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ権限外ニ為シタル事柄ニ付テモ亦其責ニ任ス

第一 委任者カ明示又默示ニテ代理人ノ行為ヲ認諾シタ

ルトキ

第二 委任者カ代理人ノ行為ニ因リテ利益ヲ得タルトキ
但其利益ノ限度ニ從フ

第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ権限アリト信スル
正當ノ理由ヲ有シタルトキ

第四節 代理ノ終了

第二百五十七條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付
シタル期限ノ到来又ハ条件ノ成就ノ外尚ホ代理ハ左ノ諸件
ニ因リテ終了ス

第一 委任者ノ為シタル廢罷

第二 代理人ノ為シタル拋棄

第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資力若クハ禁

治産

第四 委任者又ハ代理人カ代理ヲ委任シ又ハ之ヲ受諾セ
シ原因タル資格ノ絶止

第二百五十八條〜第二百六十三條 (略。成案二五二條〜二
五七條と同一)

第二百六十四條 代理終了ノ原因ハ委任者カ代理人ヨリ委任
状ヲ取戻シタルトキト雖モ代理ノ終了後懈怠ナクシテ其終
了ヲ知ラス代理人ト約束シタル第三者ニ之ヲ以テ對抗スル
コトヲ得ス

第二百六十五條 代理カ上ニ掲ケタル原因ノ一二由リテ終了

民法成立史一斑(七)

シタルトキハ代理人又ハ其相統人ハ委任者又ハ其相統人カ
既ニ生シタル利益ヲ自ラ処理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ処
理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ処理スルコトヲ
要ス

此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者
ノ廢罷ニ因レルトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

第一節 雇傭契約

第二百六十六條 使用人、番頭、手代、僕婢、職工其他ノ雇
傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ
勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ
慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ予メ解約申入ヲ為スニ
因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ為サス
又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十七條 雇傭ノ期間ハ使用人、番頭等ニ付テハ五個
年僕婢、職工等ニ付テハ一今年ヲ超ユルコトヲ得ス但習業
契約ニ関スル下ノ規定ヲ妨ケス

此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ当事者ノ一方ノ隨意ニ
テ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ為スノ權能ヲ妨ケス

第二百六十八條〜第二百七十條 (略。成案二六二條〜二六
四條と同一)

第二百七十一條 前記ノ規定ハ俳優、音楽師等ノ芸人ト座元
興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ之ヲ適用ス

第二百七十二條 医師、弁護士及ヒ学芸教師ハ雇傭人ト為ラ
ス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諾約シタル世話ヲ
与ヘ又ハ与ヘ始メタル世話ヲ継続スルコトニ付キ法定ノ義
務ナシ又患者、訴訟人又ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ
諾約ヲ得タル後其世話ヲ受クルノ責ニ任セス

然レトモ實際世話ヲ与ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ
合意トヲ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコ
トヲ得

此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諾約シタル後正当ノ原因ナ
クシテ之ヲ受クルコトヲ拒絶シタル者ハ其拒絶ヨリ此等ノ
者ニ金銭上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス
之ニ反シテ世話ヲ与フルコトヲ諾約シタル後正当ノ原因ナ
クシテ之ヲ拒絶シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル
ノ責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百七十三條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ男
女ノ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ト実験トヲ伝授シ習業者
ハ其人ノ勞務ニ助力スルヲ約スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ権力ヲ有スル人
ノ補佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ

得ス

第二百七十四條 合式ニ補佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ
取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス
但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長
スルコトヲ妨ケス

第二百七十五條 (略。成案二六九條と同一)

第二百七十六條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ居室、食物及ヒ職
業ノ器具ヲ与ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反
對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル
師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ学フ
コトヲ得セシムル為メ必要ナル時間ヲ与ヘ世話ヲ為シ及ヒ
諸般ノ便利ヲ図ルコトヲ要ス

未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方
ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ為メ休憩時
間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ与フルコトヲ要ス

第二百七十七條 習業者ハ其学ハント欲スル職業ニ関シ日
ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルコトヲ要ス

第二百七十八條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他不可抗
ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スル能ハサルト
キハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限満
了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ条件ヲ以テ休業シタル時
間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十九條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ当然終了ス

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ服役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ言渡サレタル重罪ノ処刑

又ハ三ヶ月ヲ超ユル禁錮ノ処刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期限ノ満了

第二百八十條 (略。成案二七四條と同一)

第三節 仕事請負契約

第二百八十一條 (略。成案二七五條と同一)

第二百八十二條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部

又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ為シタル後ニ意外ノ事又ハ不可

抗力ニ因リテ其物ノ滅失シタルトキハ材料ノ滅失ハ其材料

ノ属スル者之ヲ負担シ請負人ハ仕事賃ヲ損失ス

當事者ノ一方カ其所為ニ因リテ滅失ヲ來シタルカ又ハ引

渡若クハ受取ニ付キ遲滞ニ在ルトキハ其一方ノミ材料及ヒ

仕事賃ニ付キ其滅失ヲ負担ス但一層大ナル損害アルトキハ

其賠償ノ責ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ単一

ナル毀損カ物ニ其価額ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全

部ノ滅失ト同視ス又其減価カ半以下ニ在ルトキハ財産編第

百四十八條、第四百十九條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定

ヲ適用ス

注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ存在スル材料ノ部分ノ増価シタル限度ニ從ヒテ仕事賃ヲ弁済スルノ責ニ任ス

第二百八十三條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ実行セザル可キト雖モ一

分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコトヲ得

此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルト

キ又ハ之ヲ調査スルノ遲滞ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危険ノ責ヲ免カル

事ニ付キ其危険ノ責ヲ免カル

仕事ニ注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既

成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明

白ナル受取又ハ其付遲滞ノ以前ニ滅失シタルトキハ注文者

ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻

スコトヲ得ス

第二百八十四條 注文者カ異議ヲ留メスシテ工作物ヲ受取リ

タルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ発見ス

ルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代価ノ減殺又ハ其一分

ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル訴權ハ注文者ニ属スル動産又ハ不動産ノ

上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ

三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第五百五條ノ規定ヲ

適用ス

第二百八十五条 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ス但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トヲ区別セス

右責任ハ左ノ時期ノ間継続ス

第一 牆壁其他木、石又ハ瓦ヲ從トシテ用キタル土工ニ

付テハ其受取後二個年

第二 木材ヲ主トシテ用キタル建物ニ付テハ三個年

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土蔵ニ付テハ十個年

第二百八十六条 (略、成案二八〇条と同一)

第二百八十七条 経画ノ変更ヨリ代価ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其変更ヲ口実トシテ請負人ハ原代価ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ為シ又ハ請負中ノ区分アル建築ヲ廃セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ当事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判所原代価ノ増減ヲ定ム

請負人ハ経画又ハ其變更カ注文者ノ指図ニ出テタルコトヲ

口実トシテ第二百八十五条ニ定メタル責任ヲ免カルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十八条 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルトヲ問ハス注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ賃銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正当ナル利益ノ全部ヲ弁済スルノ義務ヲ負擔ス

第二百八十九条 (略、成案二八三条と同一)

第二百九十条 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ価額ノミヲ請負人又ハ其相続人ニ弁済スルノ責ニ任ス

第二百九十一条 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ前記ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ対シ負擔スル金額ヲ弁済セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文者ニ対シ其注文者ノ猶ホ請負人ニ弁済ス可キ債務ノ限度ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

職工モ亦已レヲ雇ヒタル者カ賃銀ヲ弁済セサルトキハ注文者ニ対シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

治文化資料叢書 第三卷 法律編下』（昭和三五年 風間書房）九頁以下に全文が収録されている。」

注(1) 活版印刷。目録三丁、本文七一丁および正誤表から成る。作成時期等は不明。体裁は資料二一と同じである。復刻されていないようなので、全文を採録することにした。ただし、紙幅の都合上、目録および成立した民法(明治三三年法律二八号。以下、「成案」と略称)と同一内容の案文は省略した。正誤表の記載は本文中に組み込んだ。

二三 民法草案獲得編第二部(略)

〔獲得編(第三編)第二部「包括名義ニテ獲得スル方法」(第一五〇一条)第一九六八条)の草案。活版印刷。目次三丁、本文八一丁から成る。体裁は資料二一と同一。案文は資料二四中に含まれている。本案の成立については、簡単なが、石井良助『民法典の編纂』(昭和四四年 創文社)二三一頁参照。〕

二四 民法草案獲得編第二部理由書(略)

〔獲得編(第三編)第二部(資料二三参照)の理由書。活版印刷。目次四丁、本文二九〇丁(第一章一四〇丁、第二章九五丁、第三章五五丁)、および正誤表から成る。石井良助編『明

二五 民法財産取得編(続)(略)

〔財産取得編中、第十三章「相続」、第十四章「贈与及ヒ遺贈」、第十五章「夫婦財産契約」(第二八六条)第五八〇条)の草案。活版印刷。目録二丁、本文五一丁から成る。体裁は資料二一と同一。表紙および目録には「民法財産取得編(続)」と印刷されているが、「民法」の後に手書きで「草案」と書き込まれている。本案の成立については、簡単なが、石井良助『民法典の編纂』(昭和四四年 創文社)二三二頁参照。内容、石井良助編『明治文化資料叢書 第三卷 法律編下』(昭和三五年 風間書房)三二五頁以下に収録されている。「元老院提案案」と同じである。〕